

学校を飛び出して、
地元で活躍するオトナを取材しよう！

自分にはか できない農業を。

細野ファーム
代表 細野晃大



コンピュータを用いた環境制御システムを導入し、トマトを生産されている細野ファームの細野晃大様に、どうしてコンピュータを使って農業をされたのかその経緯を伺いました。

Q:なぜトマト農家になろうと思ったのですか？

農家になったのは、まず自分に何ができるか考えた時に自然が好きだから、それに関わる仕事がしたいと思いました。

そこで、土で栽培する露地野菜農家さんの下に働きに行きましたが、労働環境に問題を感じ、自分が農業業界に入って変えていきたいと思いました。

トマトを選んだのは三年前に一番人気の野菜を調べたらトマトで、市場も増えていることを知り決めました。

そして、トマトの生産をコンピュータで管理するような、自分にはできない仕事をしたかと思いましたが、でも今後はトマトだけでなく、僕のビジョンにある野菜や果物があれば取り入れていきたいと思っています。

Q:コンピュータはいつから導入されましたか？

去年からコンピュータを導入しています。三年前に受け継いだ頃はタイマー制御のものでやっていたのですが、それだと気候に十分に対応できません。

Q:収穫の時の工夫は何ですか？

収穫は手作業でするようにしています。農業技術を学んだ専門スタッフによる厳しい目で、収穫時期を見極め、糖分や養分がしっかりと実にとまった熟れた時期に収穫するようにしています。

Q:農業で難しい事は何ですか？

トマトにベストな環境を用意するために、最初は気候を制御したいと思っていました。でも、気候は人間の力で制御できない所が面白いところでもあり、難しいところでもあります。自然をうまく利用したり、その状態や気候にあわせて自分のやりたい事を考えたりしないといけないのは難しいと思っています。

Q:農業で嬉しいことは何ですか？

トマトを食べたお客さんが「美味しい！」



ひとつの機械で全てを動かすのがベストなのでコンピュータを取り入れました。



Q:コンピュータを用いた農業の、メリツトやデメリットは何ですか？

コンピュータを用いた環境制御システムを導入することでハウス内の温度や湿度、二酸化炭素がコントロールでき、「常に旬」なトマトが作れるようになりました。その反面、最先端の設備があればおいしいトマトが作れちゃうんです。気候によるアドバンテージがだんだん少なくなると、日本でもバナナやマンゴーが作れるようになりました。

それは逆に、日本の伝統野菜が海外でも作れるようになっていくことです。コンピュータや設備が農業に大きな役割を持っています。結局は作り手の技術や目も大事になってきますね。

つというのとも良いと思います。何でも良いのでやりたいことが見つかったら、とことんやっておくべきだと思います。それが、直接ではないにしても、のちのち自分の人生の糧になって「あの時あれだけ頑張った」と思えるならそれで良いと思います。

Q:今後の夢や目標を教えてください。

うちの会社としてやりたい事は地域活性化と、この業界を少しでも変えていけるような仕組みを作る事です。銘産品をつくりメディアに取り上げられたり、観光農園とか農業を通して色んなことが学べる施設を作ったりして、地域貢献に繋がられるようにしていきたいです。

業界を変えていけるような仕組み作りでは、腰を曲げたり腕を伸ばしたりなどの農業環境を改善していけるようなハウスを作りたいかと思っています。また、今の日本の農業は新しい物を取り入れる動きが少ないです。それを変えていかないと農業は良くならないし、衰退していきます。自分たちの食べ物を自分たちで作れない時代にならないようにしていきたいと考えています。

Q:高校生の間にやっておくべき事はありますか？

何かを無理にやらないといけない、となると余計に辛いし多分できないと思います。僕はやりたいと思った時に、全力で走れるかどうかだと思っています。僕は、高校の時は何もしたくなかったし、やりたくなかったから何もしませんでした。だから、高校生とか学生の間は本当にやりたい事が見つかるまで待



【感想】

インタビューを通じて細野さんのトマトの生産に対するこだわりや、強い思いをすごく感じました。また、普段何気なくトマトを食べているけれど、そのトマトひとつひとつに農家さんたちの想いが詰まっていることが分かりました。これからは何気ない事にも、感謝の気持ちを持っていきたいと思っています。

今回、今まで知らなかった仕事の大変さややりがいを知れたり、貴重な体験ができたので今後の進路や将来に生かしていきたいです。